

このところの経済指標の弱さを受けて、さてどうなるか ~ 米雇用統計

2011年5月30日(月)

今週から6月ということで、
今週金曜日は、月一のビッグイベント
米雇用統計(5月)の発表が控えています。

5月6日に発表された4月の米雇用統計では
非農業部門雇用者数(NFP)が前月比24.4万人増と、
予想の17.5万人を遙かに上回る好結果に。
3月の22.1万人(21.6万人から上方修正)よりも弱くなるとの見通しが
思いっきり外れた格好です。

民間部門だけを見ると26.8万人と
28.6万人を記録した2006年2月以来の好結果です。
これで3ヶ月連続での20万人越えでもあり
労働市場の堅調な回復が印象づけられました。

景気回復の持続的な継続のために必要な雇用者数は
15万人といわれていますので
ここ数ヶ月の数字はかなり好感を持てる物となっています。

失業率自体は8.8%から9.0%に上昇(事前見通しは8.8%変わらず)と
ややネガティブでしたが
これは労働市場改善により
就業希望者が増えたことによるもの(注1)という見方が強く
数字自体は悪化ですが、ポジティブにとらえる向きが多いようです。

(注1)失業率の分母は労働人口、
労働市場の悪化から就業をあきらめたり、専業主婦になったりした場合、
労働人口から省かれるので、失業率の低下原因、
市場環境改善で再び職探しをはじめると、
また労働人口に入って失業率の上昇原因となる

こうした状況を受けての今回の数字ですが
非農業部門雇用者数が+19.5万人と
前回からやや鈍化の予想となっています。
(失業率は8.9%と前回から0.1%の改善予想)

関連指標として
毎週発表される
新規失業保険申請件数の数字を見ると、
4月半ばから40万件台をしっかりと維持するなど
一時の減少方向(失業保険なので少ない方がいい方向)から
横ばいもしくは悪化となっています。

また、26日に発表された第1四半期GDP改定値が
上方修正予想に対して、
速報値と同じ数字にとどまるなど、
このところの米経済指標の弱さが目立っているだけに
前回からの小幅な下落予想は
現在の市場の印象とも合致するところかもしれません。

ユーロの財政赤字懸念が市場の話題の中心となっているだけに
予想程度の弱さであればインパクトはそこそこ程度でとどまると思われませんが、
予想以上に弱い数字にあると
6月で終了するQE2の後について、
再び量的緩和(QE3)も考慮に入れるべきではと言う思惑などにつながり
大きなドル売りを呼ぶ可能性もあります。